

極寒の雪原を舞台に躍動

やまぶき

(発行所)
11特OB会

(連絡先)
札幌市南区
真駒内17番地

第11特科隊
広報援護室
TEL (011)-581-3191
内線2645

(印刷)
札幌造型合同会社



主な記事

二面 平成28年度旅団訓練検閲
三面 幹部任官式・家族説明会
四面 隊内生活体験

五面 定年退官者・定期異動者等紹介他
六面 広告記事・連絡事項他

第4次隊集中訓練

スキー行進・火砲実射訓練

隊は、平成29年1月23日から26日までの間北海道大演習場島松地区において第4次隊集中訓練を実施した。

本訓練では、冬季の特性に応ずる部隊行動として、主にスキー行進、陣地の偵察・選定及び火砲の実射訓練を行い、その能力の向上を図った。

これは、隊として99式自走155mmりゅう弾砲が装備されて初の本格的な冬季実射訓練という特性を十分に踏まえ、低温や凍結による装備品の機能低下を防ぐ処置をしっかりと準備した成果によるものである。



現地偵察・選定に向かう軽雪上車



氷点下の弾薬開梱



雪雲切り裂く土(サムライ)特科弾



示された地点を通過する中隊



急坂はトラバースにより前進



競技会に見事優勝した第2中隊



背のうの重量点検



晴天の下、恵庭岳に見守られ行進する隊員

平成二十八年度

旅団訓練検閲参加

情報と火力の連携で第10普通科連隊の任務達成に寄与

平成二十八年度

冬季山岳救助訓練

厳しい状況下で遭難者の救出及び搬送法を練成



隊長へ現状報告する
畠山1尉



第1中隊CPで
指導・激励する隊長



雪原を疾走し、火力発揮した火砲

隊は、平成29年2月1日から2月6日までの間、北海道大演習場（島松及び有明地区）において平成28年度旅団冬季訓練検閲に参加した。

隊は、第1中隊を本検閲の受閲部隊である第10普通科連隊の配属部隊とした他、統裁部の企画統制、審判、安全、管理及び補助官の各部に、人員・装備をもって支援し整齊円滑な検閲統裁に寄与した。

特に、第1中隊は、日中でも氷点下の厳しい気象条件の中、頻繁な小移動を伴う射撃の他、99式自走155mmりゅう弾砲が装備されて初めて冬季の特性に応じた部隊行動を演練した。

また、火力調整においては、情報と火力の連携により戦闘の終始を通じて火力を発揮して、第10普通科連隊の任務達成に寄与した。

万全な準備を行い、これまで以上の訓練で培った成果を遺憾なく発揮し、2夜3日にわたり、火力戦闘任務を遂行した他、多くの教訓事項を得て旅団冬季訓練検閲を終了した。



遭難者の引き上げ救出及び搬送に至る一連の動作を実習
(余市岳)



衛生携帯電話の電波を確認し定時連絡する要員（余市岳）

隊は、平成29年3月6日から17日までの間平成28年度冬季山岳救助訓練を行った。

本訓練は、第11旅団で編成する冬季山岳遭難救助隊に準ずる練度の保有を目標とし、平成27年度以降実施している訓練であり、基幹要員の練度向上と新たな基幹要員の養成を目的に、各中隊の精鋭12名が参加した。

当初、真駒内駐屯地において、基本訓練として各種器材操作及び各状況

下における対処法を段階的に訓練するとともに、現地（応用）訓練の周回準備を行った。

現地（応用）訓練は、隊区である積丹町、赤井川村に隣接する積丹岳及び余市岳を舞台に、過去の遭難事故発生箇所（雪崩、証及び危険地域（雪崩、道迷い等）の把握、並びに遭難者の救出及び搬送法等、本番さながらの厳しい状況下で行った。

参加者のうち初めて参加した隊員は、真っ黒に雪

焼けした逞しい表情で「現地訓練は3日間だったが、想像以上に体力・気力を消耗し大変だった」と語り訓練の過酷さが伺えた。

本訓練では、個々の練度向上はもとより、隊員間の信頼や組織力の必要性を改めて強く感じるとともに、役場等の関係機関との連携により各地域との信頼感を高めた訓練となった。

平成二十八年度

幹部任官式

北海道神宮で寒中みそぎを実施



開始前の作法(鳥船)で体を温める実施者



気合を入れ身を清める藺牟田3尉



冷たさに耐え寒中みそぎを行う中谷3尉(左)と石原3尉(右)



隊長申告

隊は、平成29年3月20日、北海道神宮において、旅団が実施する平成28年度幹部任官式(寒中みそぎ)に、3等陸尉任官者(本部管理中隊 中谷3尉、第2中隊 藺牟田3尉、第3中隊 石原3尉)3名が参加した。式は春浅く未だ風が冷たく感じられる中、寒中みそぎから行われた。

参加者達は、事前説明を受け準備を整え水場へ移動し、各中隊長等の見守る中、開始前の作法「鳥船」で体を温めた後、声を出し気合を入れ冷水を勢よく浴び自らの身を洗い清めた。水のあまりの冷たさに気が遠くなる実施者もいたが、最後には皆が凜とした清々しい表情で寒中みそぎを終えた。その後、団体参拝、隊長へ申告及び旅団長訓示を受け、幹部自衛官として決意を胸に第一歩を踏み出した。

転入家族及び新婚家族に対する

家族説明会の実施

特科隊の紹介や案内を通して隊員家族の不安を解消



9 9式自走155mmりゅう弾砲の前で記念撮影

隊は、平成29年4月1日、真駒内駐屯地において、平成28年度後期異動に伴う「家族説明会」を行った。

「家族説明会」は、年2回の定期異動時期に行われ、転入者家族及び新婚家族に対し、特科隊の紹介・説明や装備品展示等を行い、隊員家族の新しい職場での不安感を除去するとともに、部隊に対する信頼感を確立する目的で行われ、今回は、9家族23名が参加した。

当初、特科隊会議室において隊長の挨拶から始まり、引き続き第1科長から特科隊の紹介や活動状況について説明を行った。

次いで、場所を装軌車駐屯場に移し、99式自走155mmりゅう弾砲、99式弾薬給弾車の説明や記念撮影等を行ったのち、初めて北海道に来た家族もいることから、駐屯地



隊長あいさつ



中隊長との懇談(第3中隊)

史料館等で北海道及び駐屯地の歴史等について説明をした。

最後に各中隊長との懇談を行い、参加した家族からは、「主人の仕事内容や職場環境を見ることができ安心しました。」との声もあり、好評のうち終了した。

出身地 帯広市
 前勤務地 第1特科群
 (北千歳)
 年齢 46歳
 (昭和45年生)
 趣味 旅行、釣り



1等陸尉
 石井 邦明

第5代
 本部管理中隊長

出身地 東京都
 前勤務地 富士学校
 (富士)
 年齢 49歳
 (昭和42年生)
 趣味 史跡めぐり



2等陸佐
 両角 寿

第6代
 副隊長



自衛官の使命感を真剣に聞く新入社員



同期の絆を深めた10km徒歩行進訓練

平成29年度
隊内生活体験

規律心及び
 協調性を向上



自衛隊式腕立て伏せに四苦八苦

隊は平成29年4月4日から6日までの間、真駒内駐屯地において、平成29年度隊内生活体験を行った。隊内生活体験は、自衛隊の教育訓練課目や営内生活体験等を通じて、規律心及び協調性の向上に寄与するとともに自衛隊に対する理解を深め信頼感を確立するために行われ、今回は、極東高分子株式会社から19名の新入社員が参加した。

使命感の重要性を理解してもらうため、隊長からの講話の他、特科隊の行進訓練と合同で、10キロメートルの徒歩行進訓練を行った。参加者から、「行進訓練を終えて、忍耐力が付き、達成感を感じました。」「生活体験を通じて時間管理、健康管理、チームワークの大切さを学びました。」などの感想があった。

そして、教育終了時の見送りの際、別れを惜しんで涙を流す者もあり、充実した3日間を共に過ごした班長・班付等に感謝しつつ、駐屯地を後にした。

第1中隊 能代谷 3曹
 (大回転男子1部 第4位)



第1中隊 能登 3尉
 (基礎男子3部 第1位)



平成29年3月18日、ルスツリゾートスキー場で第24回全自衛隊スキー選手権大会(基礎)及び第44回全自衛隊スキー選手権大会(大回転)が行われ、第11特科隊から20名(隊員家族1名含む)4個人が参加した。

個人の部では、基礎男子3部(40歳〜49歳)で、第1中隊の能登3尉が60名中第1位で、第1中隊の能代谷3曹が第10位と健闘した。

また、大回転男子4部(50歳以上)では、本部管理中隊の齊藤准尉が入賞を逃したものの、年齢を感じさせない華麗な滑りで16名中第5位と健闘した。

団体の部には、46個人が参加したが、選手達は日頃から寸暇を惜しんで練習した結果、第11特科隊Aチームが第10位と健闘した。

個人の部で2名が上位入賞

一月昇任者紹介

- 三等陸佐へ 玉谷 大志 (隊本部)
- 一等陸尉へ 岩崎 慎吾 (第三中隊)
- 陸曹長へ 上田 信人 (本部管理中隊)
- 嶋田 千治 (第一中隊)
- 宮川 雅巳 ("
- 一等陸曹へ 釣部 勝 (本部管理中隊)
- 鈴木 真吾 (第一中隊)
- 前田 浩貴 (第三中隊)
- 二等陸曹へ 大和田 弥 (本部管理中隊)
- 三等陸曹へ 北山 雄基 (本部管理中隊)
- 増輪 貴矢 (第一中隊)
- 安代 勝信 (第二中隊)
- 三上 陽平 ("
- 尾崎 雄大 (第三中隊)
- 山本 直明 ("
- 陸士長へ 角田 むつみ (本部管理中隊)
- 佐藤 陽介 ("
- 及川 克久 ("
- 小名木 優貴 ("
- 伊藤 正和 (第一中隊)
- 柏野 翼 ("
- 林 健斗 ("
- 露木 竜也 (第二中隊)
- 小林 翔太 ("
- 瀬口 貴愛 (第三中隊)
- 吉川 誠一郎 ("
- 原口 駿 ("
- 一等陸士へ 三反田 豊 (本部管理中隊)
- 松館 香奈 ("
- 南 憲恵 (第一中隊)
- 茂泉 斗志 (第一中隊)
- 京谷 朋貴 (第二中隊)
- 寶田 将希 (第二中隊)
- 三上 敬司 (第二中隊)
- 山本 悠雅 (第三中隊)
- 尾関 大地 (第三中隊)
- 横島 涼太 ("

転出者紹介

- 隊本部
 - 二等陸佐 押本 直樹
 - 富士学校(富士)へ
 - 一等陸尉 畠山 和夫
 - 第四地对艦
 - ミサイル連隊(八戸)へ
 - 本部管理中隊
 - 三等陸佐 左近 仁
 - 第一特科隊(北富士)へ
 - 二等陸曹 永塚 裕幸
 - 札幌駐屯地業務隊(札幌)へ
 - 二等陸曹 中村 忠芳
 - 第十一旅団司令部
 - 付隊(真駒内)へ
 - 三等陸曹 上坊寺 愛美
 - 第十一旅団司令部
 - 付隊(真駒内)へ
 - 三等陸曹 松崎 結衣
 - 第五特科隊(帯広)へ
 - 第一中隊
 - 二等陸曹 橋本 政志
 - 第二特科連隊(旭川)へ
 - 第三中隊
 - 二等陸曹 村上 徹行
 - 第二特科連隊(旭川)へ
- 特科隊勤務お疲れ様でした。 新任地での活躍をお祈りいたします。**

転入者紹介

- 第四地对艦
- ミサイル連隊(八戸)
- 一等陸尉 古川 佳弘
- 第一中隊へ
- 第11旅団司令部(真駒内)
- 三等陸尉 渡邊 丈敦
- 隊本部(第一科)へ

- 札幌地方協力本部(札幌)
 - 陸曹長 吉田 秀文
 - 本部管理中隊へ
- 第十一旅団司令部付隊(真駒内)
 - 一等陸曹 高橋 哲矢
 - 本部管理中隊へ
- 第二特科連隊(旭川)
 - 二等陸曹 守谷 剛
 - 本部管理中隊へ
- 第六特科連隊(郡山)
 - 二等陸曹 宗像 千佳
 - 本部管理中隊へ
- 第一特科隊(北富士)
 - 二等陸曹 山川 國明
 - 本部管理中隊へ
- 第十二特科隊(宇都宮)
 - 二等陸曹 渡邊 良行
 - 本部管理中隊へ
- 第六特科連隊(郡山)
 - 三等陸曹 牛木 一成
 - 本部管理中隊へ
- 第五特科隊(帯広)
 - 二等陸曹 内山 健二
 - 第一中隊へ
- 第八特科連隊(えびの)
 - 二等陸曹 清田 直樹
 - 第二中隊へ
- 札幌地方協力本部(札幌)
 - 二等陸曹 木下 盛利
 - 第二中隊へ
- 第六特科連隊(郡山)
 - 二等陸曹 宗像 大誉
 - 第三中隊へ
- 第二特科連隊(旭川)
 - 三等陸曹 野田 宏和
 - 第三中隊へ
- 富士教導団(富士)
 - 三等陸曹 花原 紳悟
 - 第三中隊へ

定年退官者紹介

永きに渡る北の防人 大変お疲れ様でした。

※ () については定年後の就業地



石黒 3尉 29. 1. 19付 (札幌市)

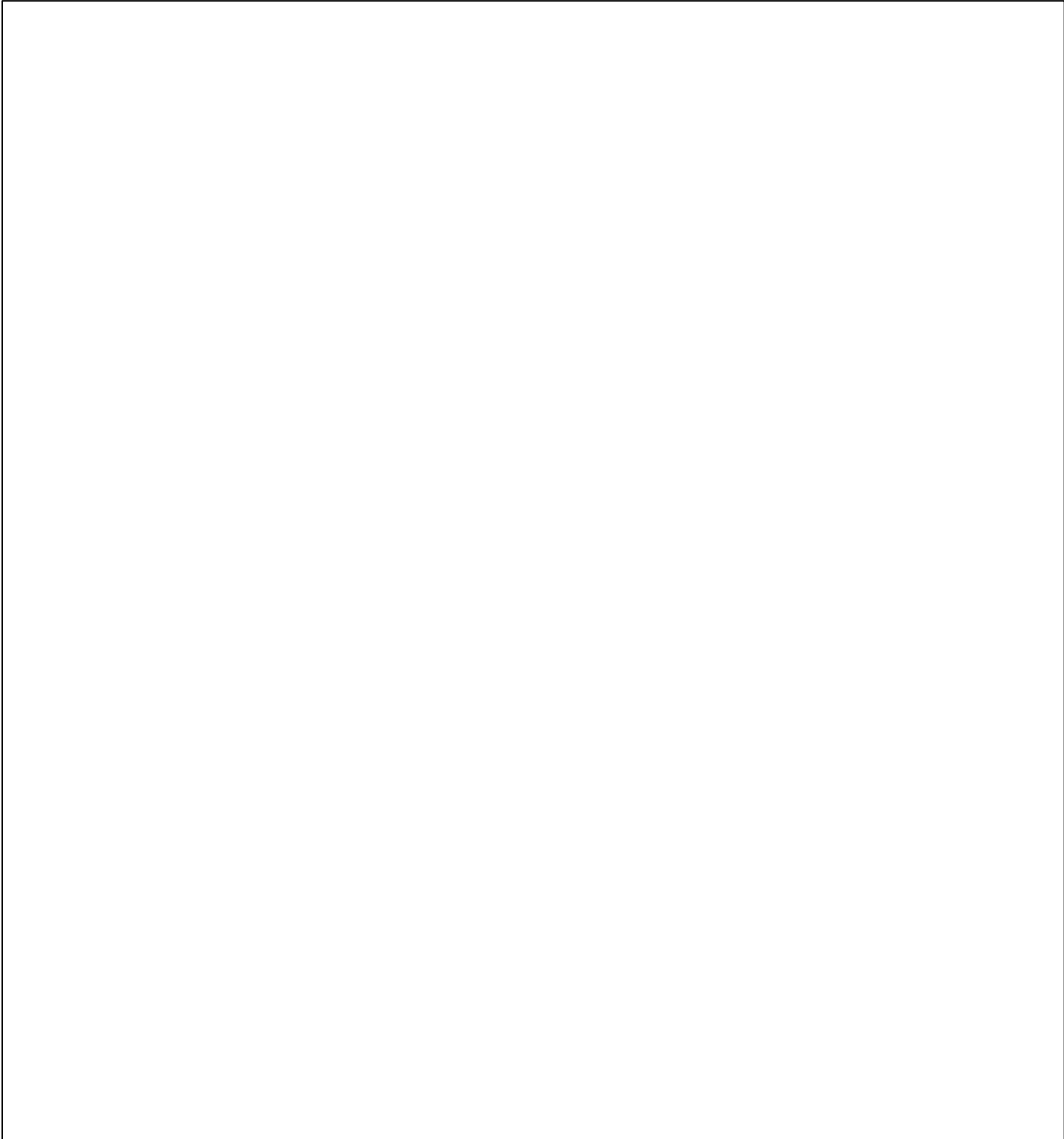
亀谷 2佐 29. 1. 20付 (札幌市)

杉山 3尉 29. 3. 9付 (札幌市)

堀江 准尉 29. 3. 21付 (札幌市)

宮野 3尉 29. 3. 26付 (札幌市)

長谷川 准尉 29. 4. 13付 (札幌市)



11特科隊の最新記事は

11特科隊 **検索**

をクリック



部隊長紹介
 各員紹介
 行事
 所在地
 隊区
 隊歌
 隊の活動状況
 さっぽろ雪まつり
 協力



第11旅団創立9周年 真駒内駐屯地開庁63周年 記念行事



2017年6月4日(日)
 場所:陸上自衛隊真駒内駐屯地(札幌市南区真駒内17)

OBの方への連絡とお願い

一 入門証について

現在、期限切れの入門証をお持ちの方で今後も必要とされる方は、更新手続きをお願いします。手続きに関しては、「特科隊広報・援護室」で行っています。
 電話〇一一一五八一―三一九一(内線二六四七) 担当 松山

二 叙位及び死亡叙勲に関する手続きについて

自衛隊員として勤務され、在職中の功績と一定の要件が満たされた方は叙勲の対象となります。特に死亡叙勲は、ご遺族からの申し出によって手続きを進める事になります。ご遺族から申し出られた後、この期間を過ぎますと叙勲が受けられなくなります。万が一ご本人が亡くなった場合には、死亡日を含め五日以内に最寄りの防衛省各機関、部隊等へ連絡することをご家族共々くれぐれもお忘れの無いようお願いいたします。

三 その他

特科隊隊舎一階には特科連隊時代の歴史を展示した広報展示室がございます。ご訪問の際にはお気軽にお立ち寄りください。